

校務 DX 計画

令和3年4月より徳島県内全公立小中学校で、徳島県公立小中学校「学校業務支援システム」を運用している。学校業務支援システムは、教職員の円滑な情報共有を行うためのグループウェアと、児童生徒の情報や学校の予定等を管理する統合型校務支援システムから成る。グループウェアにはメールや出退勤記録、掲示板、回覧板等の機能があり、統合型校務支援システムには通知表や指導要録、出席簿、時間割管理、保健（健康診断等）、学校予定管理（学校行事や教職員の出張・休暇の管理）等の機能がある。

グループウェアの特徴的な機能として、公立小中学校と市町村教育委員会、県教育委員会が効率よく簡便で安全に連絡（照会や通知、回答）を行うための県市町村連絡がある。各学校で県教育委員会と市町村教育委員会からの文章を一元管理できるため文書の検索、回答が簡単に行える。また、締め切り通知による回答忘れ防止や前年度のデータの参照も可能で、グループウェア内で操作が完結するためセキュリティも向上する。各学校に送付されてきた連絡の教職員への周知や回答のために、グループウェア内の掲示板や回覧板に転送することを推進することで業務効率化やペーパーレス化を図っていく。

職員会や職朝、終礼などの議題や資料を掲示板や回覧板で共有し、必要に応じて編集していくことで情報共有の質を向上するとともにペーパーレス化していく。さらに、軽微な事案については掲示板や回覧板等のみで情報共有することで会議を減らして教職員の働き方改革を推進していく。

また、統合型校務支援システムを活用して指導要録、出席簿、学校日誌、保健日誌等の公簿の電子化を推進している。電子化することにより、ペーパーレス化だけでなく電子的手続きにより管理職が承認することで押印の廃止にもつながっていく。また、県内での児童生徒の転出入では指導要録及び児童生徒健康診断票、学籍データをシステム内で送受信することが可能となっており、活用を促進していく。

令和7年度末に、学校業務支援システムの運用保守の期間が終了する。令和8年度以降も校務 DX を推進するためにシステムへの在り方についても検討していく。